

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

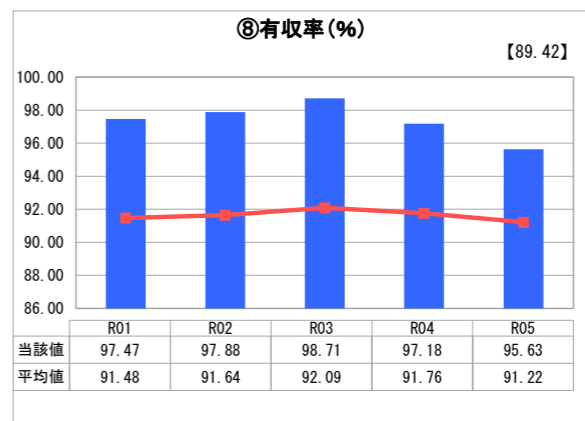
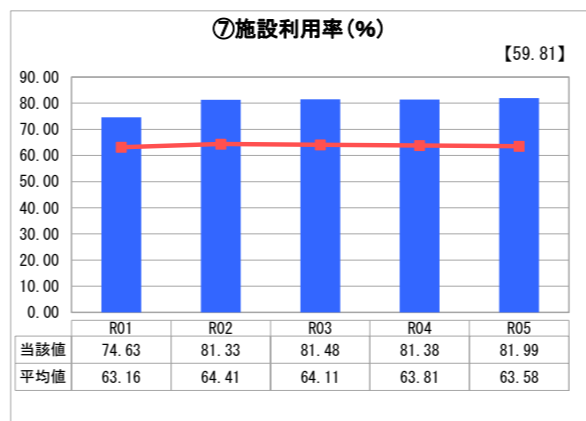
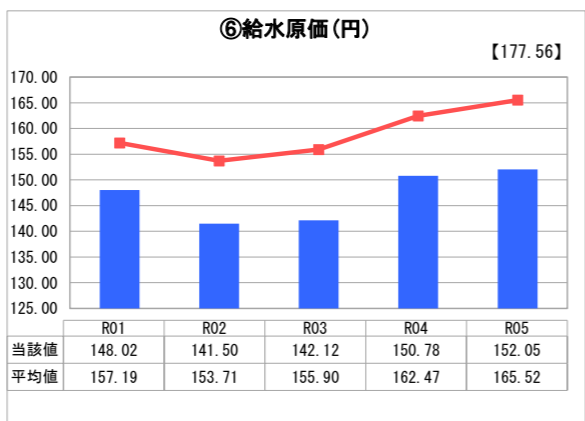
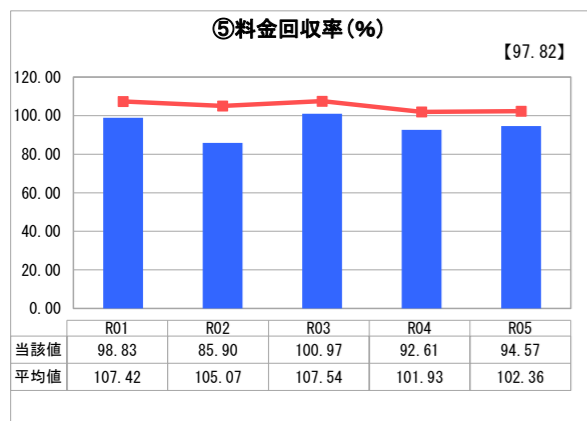
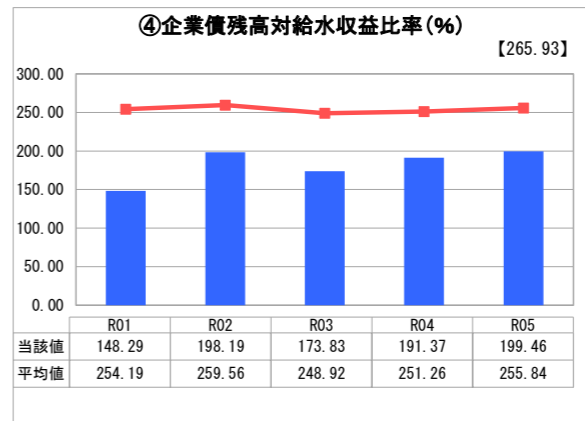
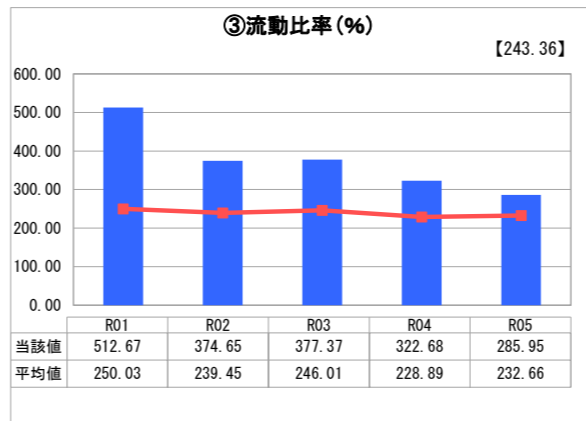
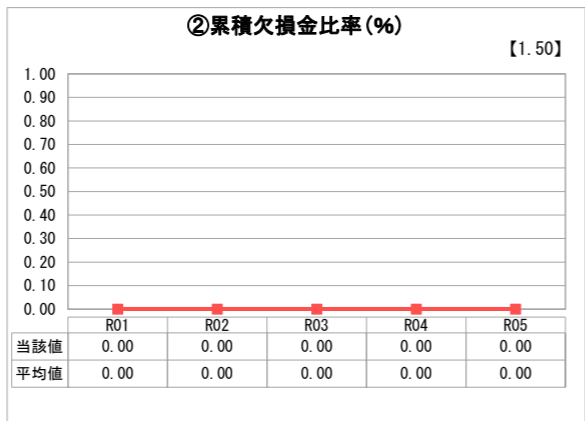
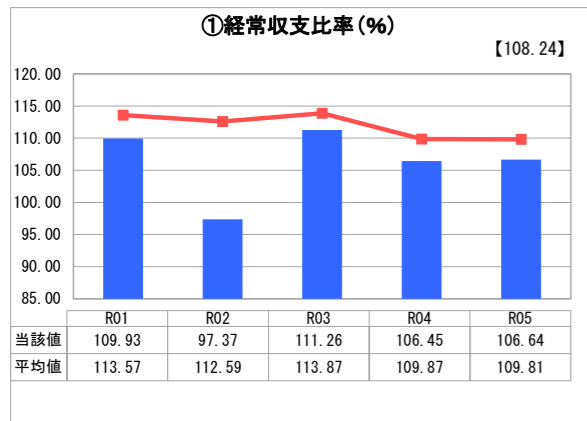
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	79.64	100.00	2,134	

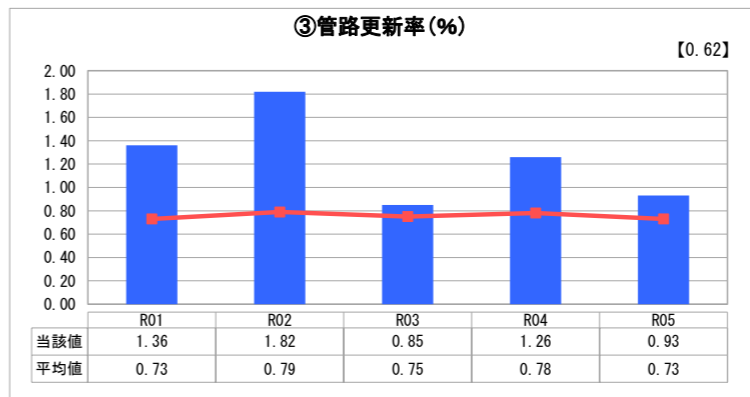
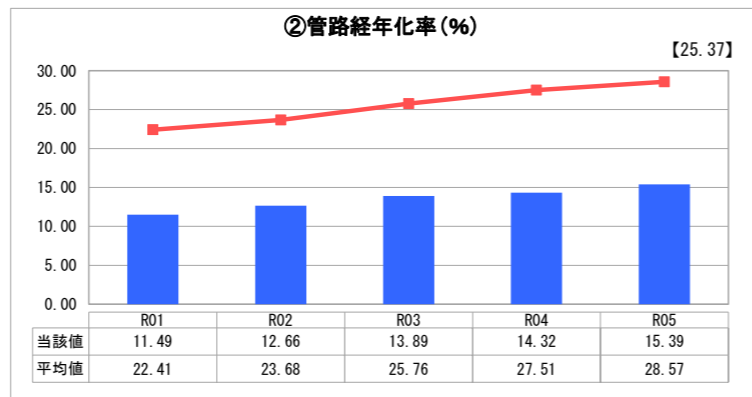
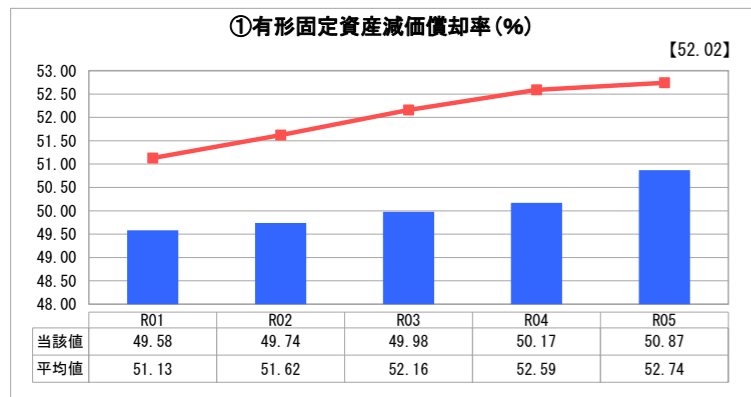
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
343,529	72.11	4,763.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
342,655	67.64	5,065.86

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
望ましいとされる100%を超えており、対前年比でほぼ横ばいとなっています。今後、給水収益の減少及び施設更新等に係る費用の増加が見込まれるため、当該指標は下降傾向となる見込みです。
- ② 流動比率  
望ましいとされる200%を超えており、支払能力はあるといえます。しかし、物価高騰等による費用の増加や、工事の年度末完成に伴う未払金の増加により、指標が下降したと考えられます。
- ③ 企業債残高対給水収益比率  
類似団体平均と比べると、値は低く、良好な状況です。しかし、物価高騰等による経費の増加に加え、施設の更新需要の増大による工事費が増加傾向にあるため、企業債の借入を継続的に行っていく必要があり、値は上昇傾向です。
- ④ 料金回収率・⑤ 給水原価  
給水収益の減少に加え、物価高騰等の影響による支出の増加により、数値が悪化したものです。
- ⑥ 施設利用率  
類似団体と比較し良好な数値ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングなど水道施設の規模適正化が引き続き必要です。
- ⑦ 有収率  
類似団体と比べ高い有収率を保っていますが、近年はやや下降傾向です。これは、経年劣化した配水管等において地下漏水が発生し、地下に浸透していた水量が増加したものと考えられます。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。
- ② 管路経年化率  
計画的な管路の更新を行っているため、類似団体と比べ、老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、着実な更新をしていく必要があります。
- ③ 管路更新率  
類似団体と比較すると、更新投資は多い状況にあり、当市の有収率の高さに繋がっていると考えられます。一方、管路経年化率は上昇傾向にあり、経年化・老朽化が進行しているため、引き続きアセットマネジメントを実施しながら、計画的な更新に取り組む必要があります。

### 全体総括

令和5年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえます。  
しかしながら、材料費や光熱費等の物価高騰により、工事費や維持管理費等の経費の増加が想定を上回っており、料金収入で賄うべき必要経費を賄うことができず、全体的に指標の数値が悪化している状況です。  
今後もこの傾向は続くものと見込んでおり、適正な水道料金のあり方を検討する必要があると考えます。  
施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら引き続き計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていく必要があります。